

## < 香川県高松市 >

地方自治体の既存施策と連携した  
歩行空間ネットワークデータ作成・活用に関  
する現地事業

### 実施内容報告

令和3年4月

実施主体：高松市都市整備局都市計画課

# 高松市の概要

◎高松市は、多島美を誇る波静かな瀬戸内海に面し、これまで、人々の暮らしや経済・文化など様々な面において、瀬戸内海との深い関わりの中で、県都として、また、四国の中枢管理都市として発展を続けてきており、人口約42万人、面積約375km<sup>2</sup>の都市である。

◎まちづくりの最上位計画である総合計画において、目指すべき都市像を「活力あふれ 創造性豊かな 瀬戸の都・高松」と設定し、6つのまちづくりの目標を設定している。

◎近年では、瀬戸内国際芸術祭の開催等により、外国人宿泊者数が増加傾向にあるなど、観光客の誘致や受け入れ環境の整備にも力を入れている。



【高松市の位置】



【中心市街地と瀬戸内海】

# 現状のバリアフリーに関する取組と課題

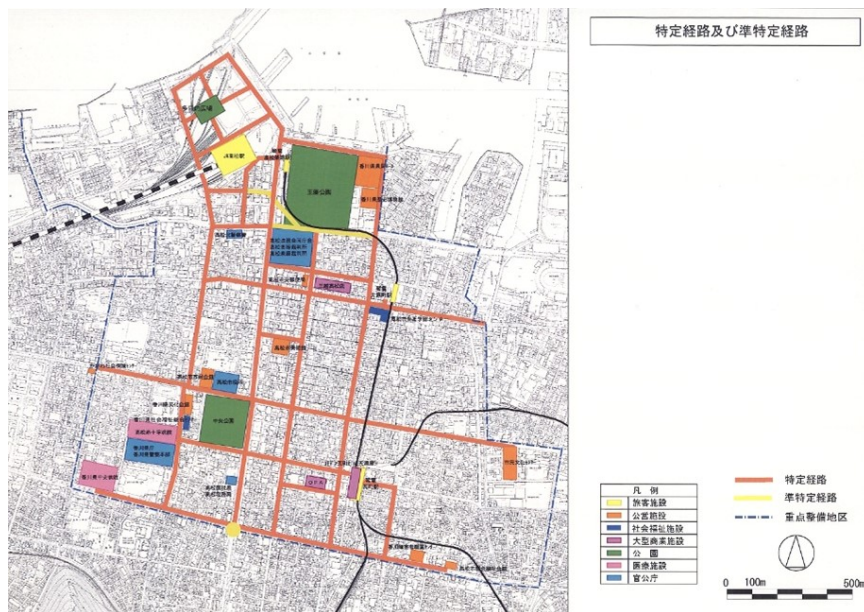
## <現状のバリアフリーに関する取組>

◎交通バリアフリー法の制定を受け、平成15年に高松市交通バリアフリー基本構想を策定。重点整備地区内の駅施設及び歩行空間のバリアフリー化を推進することとしており、各種取組を実施中。

◎平成25年には市のユニバーサルデザイン基本指針を策定し、その考え方を示すとともに、平成31年には「たかまつユニバーサルデザインマップ」を公開。公共施設等のバリアフリー対応状況や営業時間、写真を公開。

## <現状のバリアフリーに関する課題>

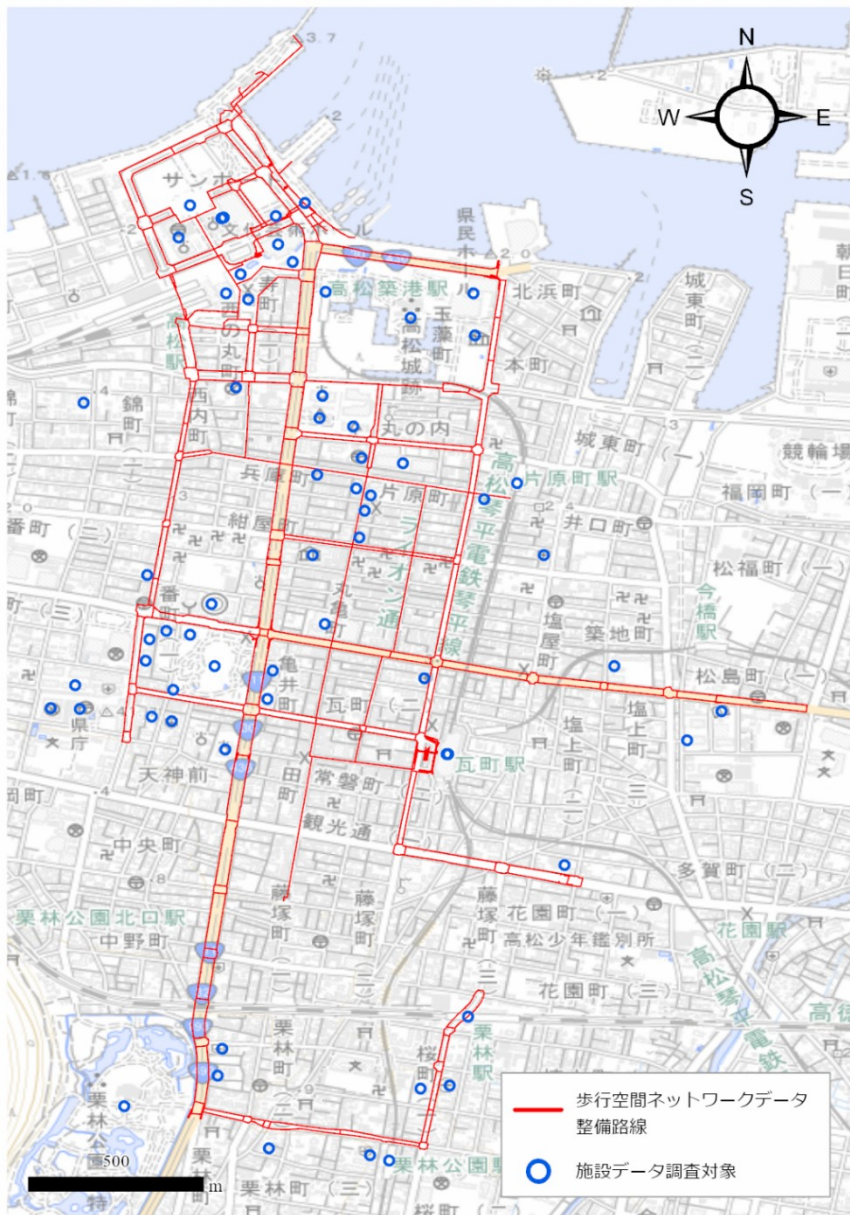
◎公共施設、交通結節拠点、観光地へのバリアフリー経路情報が未整備。



【交通バリアフリー基本構想の重点整備区域】

【たかまつユニバーサルデザインマップの公開状況】

# 歩行空間ネットワークデータの整備



【位置図：調査対象経路及び施設】

- ◎交通バリアフリー重点整備地区 + 栗林公園周辺を対象エリアとして設定
- ◎エリア内の公共施設、交通結節点、観光地等を対象施設として設定
- ◎対象施設に至るまでの主要な歩行者動線をデータ取得の対象経路として設定
- ◎整備仕様の第1層以外にも調査項目を追加。
  - ・サンポート地区での施設出入口調査
  - ・階段等を含めた車いす視点での経路構造

種別	追加調査項目・理由
歩行空間ネットワークデータ	(追加項目) バス停の有無、緯度経度、補助施設の設置状況、経路の状況 (追加理由) ・ナビゲーション検討のため ・車いす通行の適否を詳細に見るため
施設データ	(追加項目) 案内所の有無、案内板の有無、階層間移動の有無、出入り口の詳細情報 (追加理由) ・提供サービスの充実のため ・歩行者動線検討へのデータ活用のため

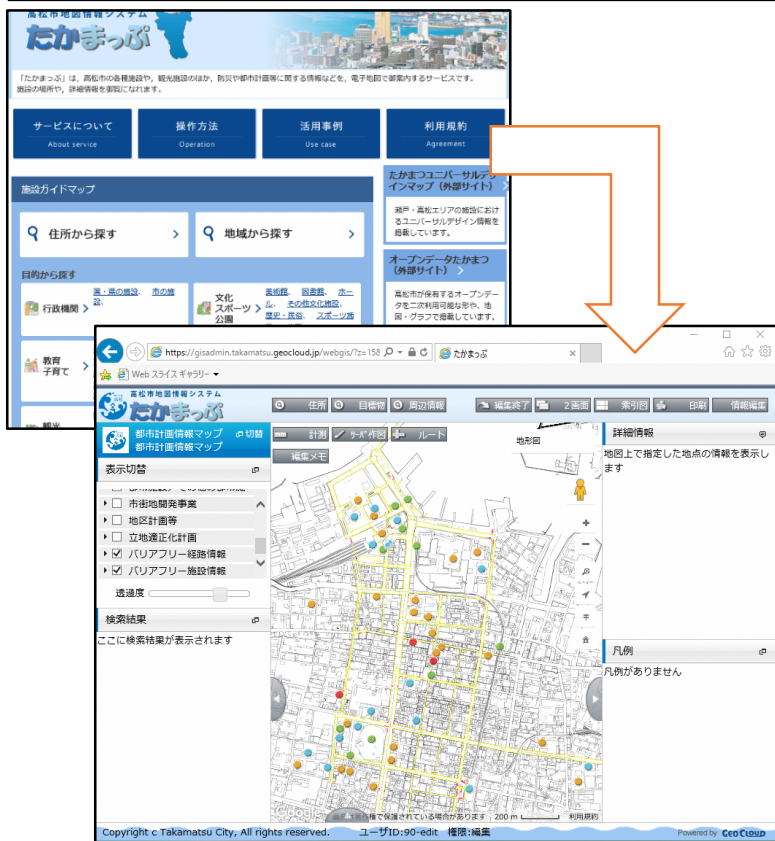
# 歩行空間ネットワークデータ等を利用したサービスの提供

◎市の公開型GIS「たかまっぷ」にて、経路情報・施設情報の調査結果を公開。

- ・調査結果をWebシステム上にアップロードし、経路を線、施設を点で表示。
- ・階段、エレベータ等の段差情報、急勾配箇所等を、一目で把握可能。

◎市のオープンデータサイト「オープンデータたかまつ」への掲載を予定。

- ・民間企業等が二次利用可能な形式で公開。
- ・民間事業者の保持するデータ、庁内他課が保持するデータを組み合わせることで、より詳細な経路案内サービスが可能。



【たかまっぷ】



【オープンデータたかまつ】

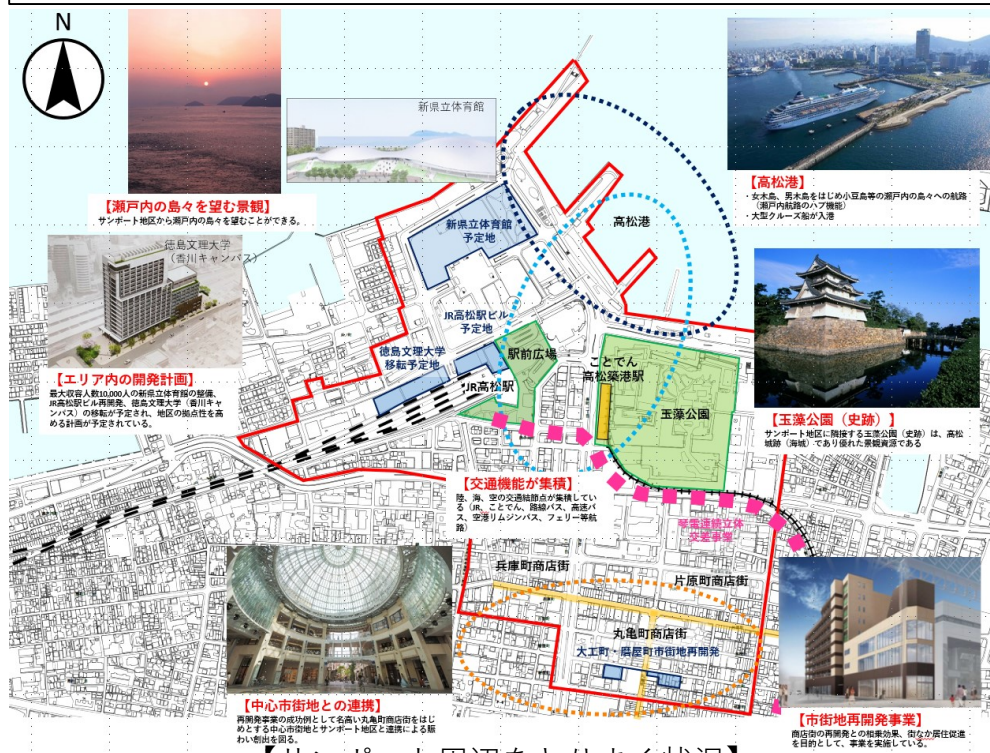
# 歩行空間ネットワークデータ等を利用したまちづくり検討

## ◎サンポート地区（JR高松駅周辺）における歩行者動線 検討

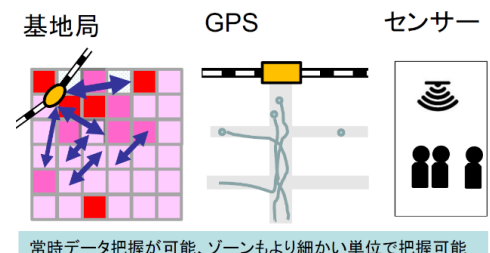
- ・瀬戸内の島々の玄関口となるサンポート地区では、様々な開発計画が同時進行中。
- ・本事業で整備した経路・施設情報によって、主要施設間のバリア位置が分かることから、バリアフリー経路状況を検討材料とすることが可能。
- ・ビッグデータ（歩行者交通量）と調査結果を重ねることにより、歩行経路選択の傾向分析に用いることが可能。

## ◎都市再生整備計画におけるまちなかウォーカブル推進事業 実施可能性の検討

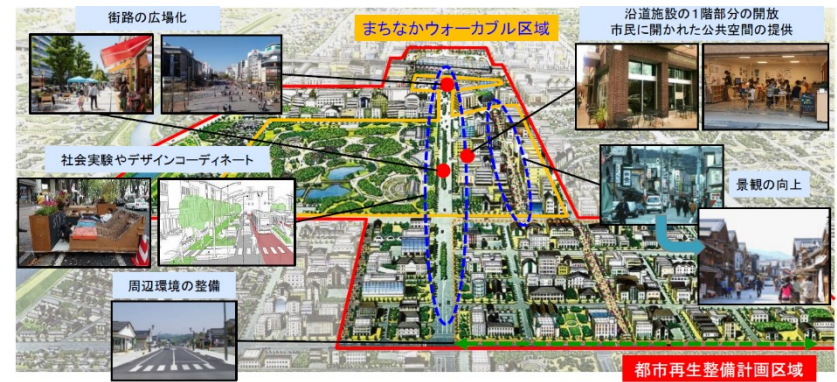
- ・同地区の歩行者動線の調査結果を、現在、国交省が推進するまちなかウォーカブル推進事業の対象範囲（ウォーカブル区域）の設定検討に役立てることが可能。
- ・バリアフリー経路沿いで、公共空間の高質化、既存ストックの修復・改変などが想定される。



【サンポート周辺をとりまく状況】



【人流ビッグデータのイメージ】 国交省資料より



【ウォーカブル区域設定のイメージ】 国交省資料より

# 歩行空間ネットワークデータ等の自治体業務への適用可能性

◎まちづくりの目標達成に向けた施策・事業の実施計画「高松市まちづくり戦略計画」などを参考に、施策・事業への適用可能性を検討。

◎「都市計画」「道路」「観光」「福祉」「防災」部門等で、本事業により得られたデータの活用が期待できるとの意見が得られた。

分野	活用が想定される用途
都市計画	<ul style="list-style-type: none"><li>・都市再生整備計画の区域設定における判断材料</li><li>・中心市街地活性化計画における商店街の環境調査</li></ul>
道路	<ul style="list-style-type: none"><li>・舗装・道路附属物の修繕箇所の検討、優先度比較</li></ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"><li>・観光マップとバリアフリー情報の連携</li><li>・観光案内所等でのサービス向上（バリアフリー情報の共有）</li></ul>
福祉	<ul style="list-style-type: none"><li>・医療施設、社会福祉施設利用者への経路案内</li><li>・たかまつユニバーサルデザインマップとの連携</li></ul>
防災	<ul style="list-style-type: none"><li>・既にオープンデータ化されている避難所情報との連携</li><li>・オープンデータ化により、自主防災組織単位での活用も期待</li></ul>

# 事業実施にあたっての課題と次年度以降の取組

## <データ整備にあたっての課題>

### ◎道路管理者との協議

・各道路管理者への調査結果確認・オープンデータ化の承諾のための協議に時間が必要

### ◎民間施設のオープンデータ化への理解

### ◎施設データについて、移転や設備更新等のフォローアップ

### ◎歩行空間ネットワークデータ等整備仕様の考え方

・縦断勾配（第一層）・・・歩道端部（擦り付け箇所）は緩やかなスロープ状ではあるが、整備仕様上、5%超箇所として取り扱われる。

### ◎整備結果の拡充・メンテナンスの実施主体について、整理が必要

## <次年度以降の取組>

### ◎整備データの多用途への活用を検討するとともに、データの維持管理の体制についての検討

⇒データのメンテナンス、より分かりやすい経路情報の公開方法についての検討

